第１回富山市総合計画審議会「第１回 都市・環境部会」
議事録

日時：2015 年 10 月 2 日（金）14:00～16:00
場所：富山市役所　302 会議室
出席者：（順不同）

神川康子　　富山大学理事・副学長（部会長）
大川内秋弘　　富山防犯協会会長
大窪宏充　　婦負森林組合代表理事組合長
楠井隆史　　富山県立大学工学部環境工学科教授
小杉邦夫　　NPO 法人日本防災士会・富山県支部富山県防災士会会長
清水一夫　　富山医療圏メディカルコントロール協議会会長
武山良三　　富山大学芸術文化学部学部長・教授
武藤玲子　　公募委員

企画管理部　今本部長、西田次長
農林水産部　篇原次長、蛯谷次長
市民生活部　清水次長
都市整備部　高森次長
建設部　帯刀次長
環境部　西中次長
上下水道局　増山次長
消防局　戸川次長
婦中総合行政センター　保井次長

議事内容：

1. <u>開会</u>
2. <u>部会長挨拶</u>
3. <u>部会長職務代理者の指名について</u>
4. <u>第２次富山市総合計画基本構想（素案）について</u>

○資料「第２次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明。

部会長

・　資料 P.18 以降の「施策の大綱」については、部会で検討を行っていく。意見があればお願いしたい。

委員

・　北陸新幹線の名前にもあるように「かがやく」富山市であってほしいというのが住民の思いだろう。市民が医療・福祉等の問題についても前向きに考えていくことが重要だろう。

- 資料 P.19（2）安全で持続性のある魅力的なまち　主要施策（5）交通体系の整備について意見がある。後期高齢者が増加する中で、タクシーや路線バス、デイケア等の施設が運行するバス等の利用が、今後大幅に広がっていくと感じている。交通の整備にあたっては、後期高齢者が安全に歩いて暮らすことのできるまちづくりを考える必要がある。現在富山市の信号は残り時間が秒単位で表示されているが、後期高齢者や子ども連れの人、車いすの人等が、本当に安全・安心して通行することができているのか疑問がある。特に富山駅周辺の整備状況には課題があると考えている。
- 資料 P.19（2）安全で持続性のある魅力的なまち　主要施策（1）賑わいと交流の都市空間の整備・充実についてだが、周囲からは「駅前の駐車場が少ない」という声をよく聞く。新幹線に乗ろうとしても駅前に車を置くスペースが少ない。また、駅前周辺には子どもたちを遊ばせられるような施設がない。外で遊ぶことのできる施設等の整備を検討する必要があるのではないか。

事務局

- 信号について、市民の皆さんからも同様のご意見をいただいているが、実際の権限を有しているのは警察や公安委員会である。市民から寄せられた情報を警察や公安委員会と共有し、個別の案件に対して可能な範囲で対応をいただいている状況である。部会で取り組むべき方向性についてご意見を出していただければ、各機関と連絡を取って対応を検討することができると考えている。
- 交通体系の整備については、公共交通と自動車交通（自転車含む）の大きく二つに分けられる。現在富山市では、富山駅を中心とする放射状の交通が整備されており、どこからでも富山駅にアクセスすることができるようになっている。富山駅からは LRT も利用することができる。こうした方向性は、第 2 次総合計画についても同様だと考えている。自動車の利用もあるが、富山市としてはやはり公共交通を利用いただきたい。環状線を利用し、グランドプラザ等の各施設を利用していただければと思う。

委員

- 総合計画では、様々なことを考える一方でメリハリをつけることも重要ではないか。資料の「富山市」を別の市町村名に置き換えても違和感がない。富山市として何を重視するのかを冒頭から明確にしていただきたい。現在記載されている内容は「その通りだ」と思うものばかりだが、富山市の特色や他の都市に対して誇れる強みを前面に出していただきたい。
- どのような社会を目指しているのかといった目標も必要だろう。富山市の特色を打ち出し、その目標を達成するためにどのような施策を行うのかという構成にしてはどうか。個別の政策もこれまで通りの文言ではなく、観点を新たにすることが必要だと感じている。市民目線も必要である。
- グランドプラザ周辺も徐々に改善されてきているが、人の集中とともに駐車場が不足するようになってきている。公共交通の活性化だけではなく、環状線全体でそうした問題を担保できるような仕組みや制度づくりが求められている。商業開発とも一体的に考える必要があるだろう。
- 個別の施策も必要だが、今後は、施策同士をつなぐ横断的な取組に向けた仕組みづくりが重要である。今回の資料にはそうした横断的な内容が記載されていない。今後の都市は「総合力」が重要である。都市経営として、どのような施策が有効なのか検討していただきたい。
- 「未来創造」という言葉についても、どこの地域でも取り組むことができる。「環境都市」でもよいが、世界の都市が見習うようなものとして、富山市としての着眼点を明確にするべきである。

委員

- レジリエント・シティに選ばれたということは大変喜ばしいことだ。選定をきっかけとして災害に強いまちづくりを進めていただきたい。しかし、市民の防災に対する意識は非常に低い。以前、防災講座の打ち合わせをした際には、「富山市が何とかしてくれる」、「富山市が何か考えてくれているだろう」という意見を多く聞いた。現状は、そうした意識を持つ市民が多いということだろう。
- 東日本大震災発生２か月後に、学童保育の方から相談があった。学童保育の指導員はアルバイトであり、「保育中に震災が発生したらどのように対応すればよいのか」、「避難訓練をしたこともなければマニュアルもない」という相談内容だった。防災士会では実際に学童保育施設を視察し、個別の環境面も含めて調査・報告を行ったが、それをきっかけとして小学校の避難訓練の見学などから取組を始めているようだ。また、学校の用務員からも相談が寄せられたことがある。用務員は学校の先生から寄せられる要望（木の剪定、くぎ打ち等）に応えているが、防災については勉強する機会もなく、よく分かっていないようだ。
- 防災意識を高めることを考えると、施策から抜け落ちている内容があるのではないか。学校教育と福祉の連携についても検討する必要がある。現在は用務員がくぎを 1 本打つのにも書類の提出が必要で、スムーズに動けないとのことだ。そうした問題を解決し、スムーズに動けるようになれればよいと考えている。

委員

- 高岡市で女性消防団員をしていた際、防災意識を高めるために小中学校を訪問し、劇を通じて災害の怖さや防災の意識、救急救命等について教育者や児童に伝える活動に取り組んだ。富山市ではそうした活動があるということを聞いたことがない。

部会長

- それぞれの学校で取組をされているだろうが、教育者や保護者も含めて、防災の意識は高めていく必要があるだろう。かつてハザードマップづくりに関わったことがあるが、災害発生時にどれくらいの対応をすることができるのか、ソフト面も含めて確認できるものがあるとよい。

委員

- どうしても金沢市と富山市を比較してしまう。北陸新幹線の整備について言えば、金沢市は新幹線が開業する 1 年前には整備が終わっていたのに対し、富山市では現在やっと駅前の再開発が進められているところである。昔から感じてきたことだが、民間と行政の役割分担もあると思うが、駅前の再開発だけではなく駐車場等の問題も含めて検討する必要があるのではないか。

事務局

- 北陸新幹線の開業に関連した事業について、金沢市に比べて富山市が遅れているということはない。踏切の除却事業は現在金沢市でも行われていることである。国の支援事業が当初踏切のみを対象にしており、アンダーパスしかない富山市は当初補助の対象にならなかった。途中で支援事業の対象が変更されたため、富山市ではその分事業のスタートが遅れてしまっている。
- 高架化については、北陸新幹線部分を最優先で取り組んできたため、在来線の高架化にはあと３～４年の期間が必要である。富山県・富山市双方の説明不足もあると思うが、現在目標の達成に向けて、鋭意作業を進めているところである。
- 駐車場の問題についてだが、個人的な意見としてはバスや電車、タクシー等の公共交通を利用

してほしい。現在は自動車の利便性が勝っており、富山駅に自動車で向かう人が多いのだと思うが、公共交通の利便性を上げることでバスや電車の利用者を増やしていきたいと考えている。最近では新幹線開業効果も落ち着きを見せており、高架下の時間貸駐車場も満車になることはない。既存の他の駐車場への誘導等の対策は必要だと考えている。将来的には、高齢化の進行とともに自動車利用は少なくなってくると考えられ、公共交通でのアクセスを促進していければと思う。

部会長

- 市民側にもいろいろな思いもある。自動車の利用者には県外から来られる方も含まれている。市民や市外居住者等、様々な立場で考える必要があるだろう。駅前の工事がいつ終わるかといった情報についても、富山市としてうまく PR できるとよい。
- 駐車場の利用が落ち着いてきているということだが、市民の中には諦め半分という気持ちもあるのではないか。

委員

- 救急救命については非常にうまい具合にできている。消防の方はよくご存じだろうが、ドクターヘリも活用されている。しかし、コンパクトシティを掲げるのであれば、政策としてドクターヘリに加えてドクターカーを提供できるような仕組みについても考える必要があるだろう。
- いくつかの地域をひとまとまりで考える「クラスター」という考え方がある。現在の資料からは、富山市を中心とするクラスターをどうしたいのかというビジョンが見えてこない。例えば住宅の開発をするならばどのような人に住んでほしいのか、対象とするターゲットと富山市としてのビジョンを明確にする必要がある。
- 北陸新幹線の開業に合わせ、民間活力を優先させるとしても、富山市としてまちづくりの方向性を示すことが重要である。商業施設やアミューズメント施設についてもそうだが、例えば民間の建物に太陽光の設置や緑化を義務付ける、用地買収に当たってインセンティブを付与する等の手法を用い、富山市として、クラスターにどのような機能を配置するのか示す必要がある。
- 高齢者から若者まで住めるコンパクトなまちづくりには公園や保育所等の整備も必要である。現在は医療施設に行くのも自動車を利用している状況である。
- ドクターカーを整備するためのインセンティブを付与していただきたい。ドクターカーの運行に必要な人員や施設の確保に対し、補助金の支給や税制上の措置を行うといったことも考えられる。

委員

- 人口減少は一律に進むものではない。今後はより一層の過疎化・高齢化が進む地域も出てくるだろう。そういった地域をどのようにサポートしていくのか検討する必要がある。地域ごとの強みを生かし居住環境を改善することも含め、集中と選択を意識していくことが重要ではないか。
- 資源と環境という面では、新しい発想を取り入れながら資源循環を考えていく必要がある。

委員

- 部会の進め方についてだが、まず富山市がどのようなことを考えているのか説明いただいた上で、各委員が専門家の視点で短期的・長期的にどのように取り組めばよいのか助言をするという方式がよいのではないか。ここまで、漠然とした話をしているという印象を受けている。
- 富山市として、どのような考えで今回の資料を作成しているのか。

部会長

- 今日は初回ということもあり、忌憚のないご意見をそれぞれの立場から伝えていただきたいと考えている。まずは課題出しを行い、整理していこうという思いでいる。
- 富山市の思いについては、先ほどからの回答の中にもあるように思うが、いかがか。

事務局

- 総合計画の構成についてだが、富山市が将来どういう方向に向けていくかということをそれぞれの部会で議論いただきたいと考えている。個別の施策等、具体の中身に関する議論については今年度末から来年にかけての前期基本計画の中で検討を進めていくため、今回の資料では施策のタイトルだけを記載している。富山市として現在進めている事業や今後進めていきたいと考えている事業を提案させていただきながら、総合計画にどのような視点が必要か、委員の皆様からご意見をいただきたい。
- 部会では、総合計画に基づき富山市が何をすべきか、テーマの洗い出しができればと思う。今回の検討を踏まえて富山市として進めていきたいことをお出しし、再び意見をいただければと考えている。

部会長

- これから思いを詰め込んでいくということだろう。これまでの議論でも様々なキーワードが挙げられている。今日この場でご意見をいただければ、もう少し中身の肉付けをしていけるのではないかと思う。
- この部会は都市・環境がテーマだが、他の部会とも連動してくるだろう。必要があれば他の部会に議題をかけることもできる。

委員

- 富山市に移り住んでから家族で称名滝を訪問した。2 回目に称名滝を訪問した際、看板が新しくきれいになっていることに驚き、努力されているのだと思った。一方で、上り坂で乳母車を押す家族や杖をつきながら登る高齢者を見かけたことが気になった。もし万が一のことがあった場合に、助けをきちんと求めることができるのか心配に思っている。観光客も含めて、安全・安心に過ごすことができるような整備を進めた方がよいのではないか。

部会長

- 啓発とともに、有事の際にどのような対応が可能かシミュレーション等を行っておくことも必要だろう。
- 少子高齢化を一緒くたに書くことに違和感がある。少子化と高齢者の問題は分けた方がよいのではないか。

委員

- 少子高齢化は少子高齢化でよいと思う。高齢化が進む中で、高齢者に対してどのようなサービスやビジネスを提供できるか考えればよい。高齢者等がどのようなニーズを持っているのか明確にする必要がある。富山西武が閉店してそのままになっているが、商業施設は人が集まる上でも必要な施設である。総曲輪についても現状のままにしておくのではなく、総曲輪という歴史的な商業地域を再開発するプランを富山市として立てればよい。例えば、全国の事例では昭和の街並みで売り出している地域もある。

- 若い人を呼び込むのならば、保育施設が必要になる。高齢者に対しては、囲碁等が楽しめるようなアミューズメント施設が必要である。ガラス美術館のような建物ではなく、もっとカジュアルな人が集まれるような施設を作ってはどうか。
- アメリカのシアトルでは、雪が降っているときでも必要な施設に濡れずにアクセスできると聞いた。例えば、富山駅から基幹施設へのアクセスに高架を付けてはどうか。「雪は降るが、中心都市は傘がいらない」というようなキャッチフレーズを付けるというアイディアもある。整備に必要な資金は、整備に関係する建物に入居・所有する企業から出資させればよい。

部会長

- 20 年前に、中央通りや総曲輪通りもそのうち人が来なくなるので、環状にしてはどうかという提案をしたことがある。当時を思い出すと恥ずかしくなるが、これまでの議論の中には取り組む価値があるアイディアも多くあるのではないか。子どもの時の遊び場が確保されており、年をとってもアミューズメント施設を利用できるというように、生涯を通じて利用することのできるまちの姿を打ち出してはどうか。

委員

- 今回は初回のため様々な意見が出てもよいと思うが、各論に入るのは少し早いと思う。
- 資料 P.14～15 の基本理念や基本目標に「安らぎ・誇り・輝き」や、「安全で持続性のあるまち」等のフレーズが挙がっているが、コンパクトとは何がコンパクトなのか、持続性とはどういったことを目指しているのか、富山市が考える自然、防災とは何なのかといった議論が必要なのではないか。そうした議論がないと、各論・場当たり的な議論で終わってしまう。フレーズとしての短い言葉は必要だと思うが、そこにどのような意味が含まれているのか、委員の中で共通認識を持つことを含めて議論していく必要があるだろう。
- シアトルの話も出たが、ポートランド等の事例についても調べてはどうか。

部会長

- フレーズにどのような意味が含まれているかということについては、各自で考えていただき、次回議論してはどうか。
- 人口減少の中で富山市に必要なものを落とし込んでいければと思う。今回の議論でそれぞれの考えの方向性も見えてきたので、都市・環境部会として画期的な意見を出せればと思う。

事務局

- 次回は、11 月中下旬を予定している。日程の調整についてはまたご連絡させていただく。

以上